

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒100-0011
 住所 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
 氏名 JFEスチール株式会社
 代表取締役社長 柿木 厚司 印
 (代理人) 専務執行役員 地区所長 日下 修一
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	JFEスチール株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区扇島1番地1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	22	鉄鋼業
主たる事業 の内容	高炉による製鉄業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	本数値情報は経営上の秘匿情報であり、 記載・開示できません。	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	374,682	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	エネルギー部エネルギー技術室
		所在地	川崎市川崎区扇島1番地1号
		電話番号	044-322-1601
		FAX番号	044-322-1539
		メールアドレス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ~ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号の通り
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号の通り
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号の通り
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号の通り
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/feature/world.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

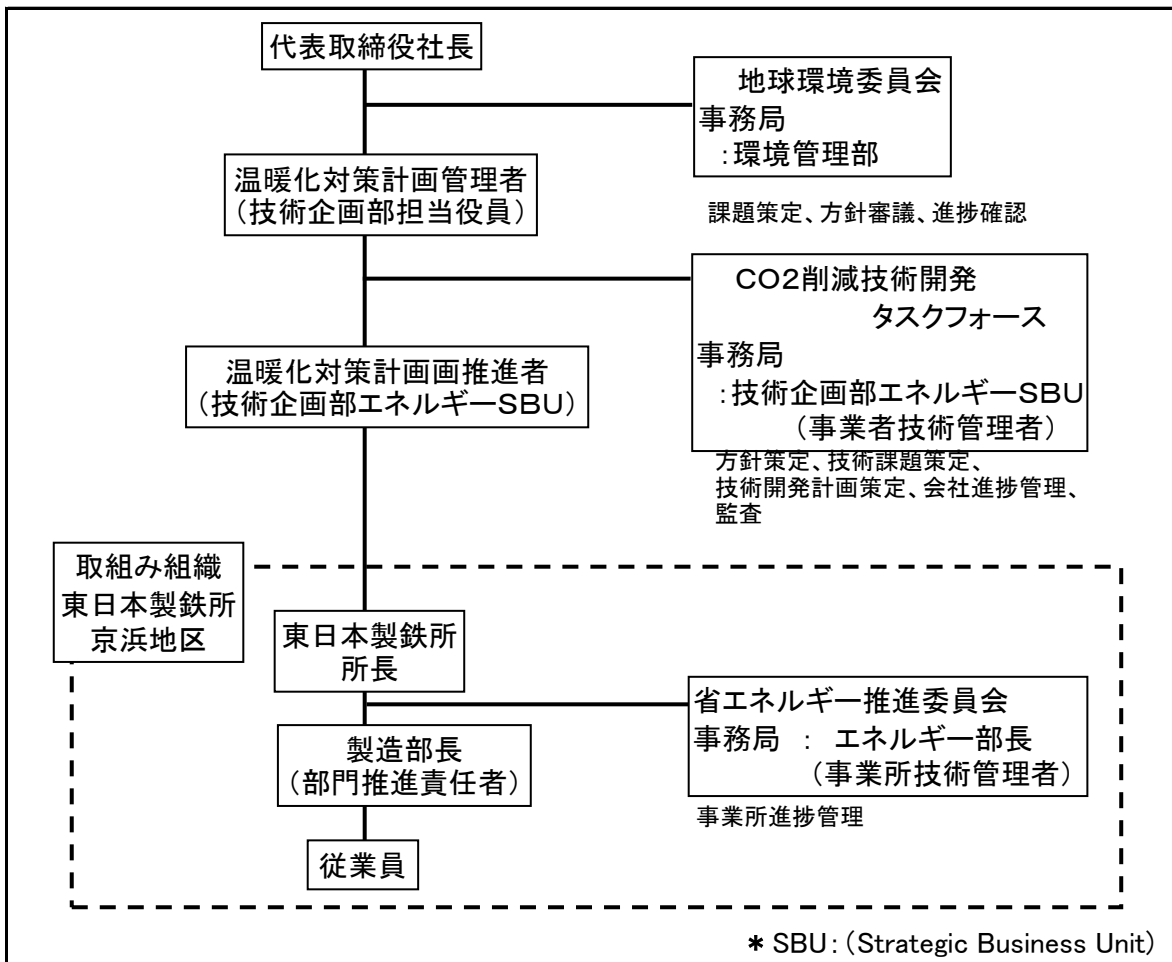
JFEグループは地球環境の向上を経営の重要課題と位置付け、環境と調和した事業活動を推進いたします

JFEスチールでは、日本鉄鋼連盟の「低炭素社会実行計画」を推進し製鉄プロセスにおけるCO2削減に向けた

さまざまな取り組みを続けています。

1. 最新の省エネ技術で低CO2製鉄を実現
2. 最終製品使用時のCO2排出削減に貢献する高機能鋼材のさらなる開発・普及
4. 革新的製鉄プロセスの開発 (COURSE50)、(フェロコークス) 推進
6. 省エネルギー・環境技術の普及に関わる国際協力の展開

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成 27 年度	目標年度	平成 30 年度
基準排出量	(実) 8,442,124 t-CO ₂ (調) * * * * *	目標排出量	(実) 8,398,347 t-CO ₂
削減率	(実) 0.52 %	削減量	(実) 43,777 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	粗鋼量	単 位	t-CO ₂ /t-s
基準年度の値	2.100	目標年度の値	2.089
削減率	0.52 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

<p>JFEスチールでは、日本鉄鋼連盟の「低炭素社会実行計画」を推進し製鉄プロセスにおけるCO₂削減に向けたさまざまな取り組みを続けています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最新の省エネ技術で低CO₂製鉄を実現 2. 最終製品使用時のCO₂排出削減に貢献する高機能鋼材のさらなる開発・普及 4. 革新的製鉄プロセスの開発 (COURSE50)、(フェロコークス) 推進 6. 省エネルギー・環境技術の普及に関わる国際協力の展開 <p>今後も各種活動を展開して原単位低減を図っていきます。</p> <p>目標年度の平成30年度は、国内外市場ニーズに従った生産量変動で、CO₂排出量の変動が推定され、明確な数量目標は出来ませんが、基準年度と同一の生産量と仮定します</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発電専用設備の効率改善 平成28年度 火力発電所2号機低圧タービンを高効率型へ更新を行う ○ポンプ・ファンの負荷に応じた適正な流量・圧力による運転 平成29年度 排ガスブロウインバータ化を行う ○コンプレッサーの台数制御 平成30年度 高効率型空気圧縮機へ更新を行う ○事務所の空気調和設備の高効率運転 平成28年度 事務所空気調和設備更新 ○被加熱物温度の適正管理 平成29年度 スラブ熱片率向上を行う ○生産設備のエネルギー管理 工場横断で省エネルギー推進組織で活動
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

計画なし

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

<p>JFEスチールでは日本鉄鋼連盟の「低炭素社会実行計画」を推進し、製鉄プロセスにおける省エネルギー・CO2排出削減に向けたさまざまな取り組みを過去から続けており、世界最高効率の製鉄プロセスを実現しております。</p> <p>2015年度は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高効率設備導入による製鉄所の省エネルギーを実施しております
--

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

JFEスチールは製鉄プロセスにおける省エネルギー・CO2排出削減努力のほか、

- 物流の環境負荷低減
鋼材の輸送に伴う環境負荷低減に向けて船舶や鉄道への輸送手段切替（モーダルシフト）を積極的に進めています
- 最終製品の省エネルギーに貢献する高機能鋼材の提供
- 省エネルギー・環境技術の普及に関わる国際協力の取り組み

などを行い、総合的なCO2排出量の削減に取り組んでいます。

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

JFEスチールでは、「環境理念と環境方針」に基づき

1. 環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 の認証取得を推進し、全ての生産拠点で取得を完了しております。
更にグループ会社の取得も進んでおります。

2. 全ての従業員が積極的に環境保全に取り組む企業風土の醸成を目指し、

- 入社時・昇進時の研修プログラム、階層別・職種別の教育研修

- 社員への公害防止管理者取得の励行

- グループ各社の環境管理者への研修

を実施しております。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	8,442,124	t-CO ₂
(調)	*****	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製鉄所(京浜地区)	川崎市川崎区扇島1番地1号	2211	高炉による製鉄業	8,442,124 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k1 未満	
300~400k1 未満	
200~300k1 未満	
100~200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東日本製鉄所(京浜地区)	川崎市川崎区扇島1番地1号	2211	高炉による製鉄業	8,442,124 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	0
------	---